

(様式1)

県立高校指定校事業（令和4年度指定） 3年間計画書

学校名	相模原総合高等学校（㊤・定・通）	校長名	小松 巖
指定名	プログラミング教育研究推進校		
研究主題	プログラミング教育によって生徒の確かな論理的思考力の定着、協働的問題解決能力の育成を図る。プログラミング教育の実践を通じて指導内容や評価方法等を研究開発し、その成果の普及を図る。		
3年間の目標 （3年後のめざすべき姿）	情報技術の進展が社会生活を大きく変化させている現状を踏まえ、生徒の情報技術に対する興味・関心を育みながら情報活用能力の一層の向上を図る。プログラミング教育によって、生徒の確かな論理的思考力の定着・向上、協働的問題解決能力の育成を図るとともに、様々な課題に創造的に取り組むためのツールとしてプログラミングを活用する能力を持つ人材の育成をめざす。		
3年間の 研究内容	<p>(1) 研究主題の設定理由とこれまでの本校における取組</p> <p>世界最高水準の IT 社会の実現をめざす我が国においては、国民・社会を守るサイバーセキュリティ確保に向けた基盤強化、IT 利活用の更なる促進が求められている。このため初等中等教育段階からのプログラミング教育、情報モラル教育の実践に取り組んでいく必要がある。</p> <p>平成 15 年度に開校した本校は、総合学科高校として多くの総合選択科目を設置してきた。平成 28 年度よりプログラミング教育研究推進校に指定され、共通教科情報科の科目「情報の科学」の単元「問題解決とコンピュータの活用」を中心として、全教科でプログラミング教育の視点を意識した授業実践を行ってきた。</p> <p>(2) 研究の内容</p> <p>研究主題として設定した内容に加えて、今までの取組を新校に引き継ぎつつ外部有識者の指導・助言を受け、研究内容の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 商業科の科目「発展プログラミング」において、プログラミング教育の視点を体験しながら学習し、他教科で汎用的に必要な問題発見・解決能力を育成する。○ 組み立てロボット及び制御用端末を活用して、生徒の興味・関心を高める。○ 高大学連携を活用しプログラミング教育に関する情報交換を行う。○ 生徒アンケートを実施する（思考力・判断力・表現力を高められたか等）。○ 生徒による授業評価により、「プログラミング教育の視点を意識して授業に取り組めたか」、また「プログラミング教育の視点が身についたか」を測る。○ 各教科においてプログラミング教育の視点を踏まえた授業研究に取り組む。○ 研究成果物をホームページで公開する。 <p>(3) 成果の検証方法及び成果指標</p> <p>ア 成果の検証方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3年間の取組を通じたアンケートを生徒・教員対象に実施する。・ プログラミング教育を他教科へ波及させるための授業研究に取り組む。 <p>イ 成果指針</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3年間の取組を通して、「魅力と特色づくりアンケート」のうち、「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力を高めることができた」という生徒の割合が、令和7年3月に60%以上であること。・ 3年間の取組を通して、「生徒による授業評価」のうち、項目6「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」という生徒の割合が、令和7年3月に90%以上であること。・ プログラミング教育の視点を踏まえた各教科の授業を全教員が実践できること。		

<p>研究計画の概要</p>	<p>令和4年度</p> <p>○目標 プログラミング教育の5つの視点のうち「ベストな方法かどうかを分析する」の目標達成に向けて、振り返りを意識しつつ段階を踏んだわかりやすい授業の研究に取り組む。</p> <p>○手立て ・商業科の科目「発展プログラミング」において、Python 言語を使った問題解決学習を実施するとともに、プログラミング教育の5つの視点を生徒に身につけさせる授業を行う。 ・情報科の学校設定科目において、プログラミング教育の5つの視点を生徒に身につけさせる授業を行う。 ・各教科・科目において、授業の展開や過程を意識した授業実践を行う。 ・各教室にプログラミング教育の視点を掲示するとともに、授業担当者が1時間の授業のねらいやゴールを明示し、分析する。</p>
<p>令和5年度</p>	<p>○目標 取り組みを新校に引き継ぎ、プログラミング教育の5つの視点のうち「物事を分解して理解する」「やるべきことを順序立てて考える」の目標達成に向けて、段階を踏んだわかりやすい授業の研究に取り組む。また、情報科の科目「情報Ⅰ」におけるプログラミング教育の学習指導案を作成するとともに評価方法について研究する。</p> <p>○手立て ・全校生徒対象のプログラミング教育ガイダンスを行う。 ・情報科の科目「情報Ⅰ」において、プログラミング教育の5つの視点を生徒に身につけさせる研究授業を行うとともに学習指導案を作成し、評価方法を研究する。 ・情報科の学校設定科目において、プログラミング教育の5つの視点を生徒に身につけさせる授業を行う。 ・各教科・科目において、授業の展開や過程を意識した研究授業を行う。</p>
<p>令和6年度</p>	<p>○目標 情報科の科目「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」を中心に、プログラミング教育の5つの視点のうち「ベストな方法かどうかを分析する」の目標達成に向けて、振り返りを意識しつつ段階を踏んだわかりやすい授業の研究に取り組む。</p> <p>○手立て ・新入生徒対象のプログラミング教育ガイダンスを行う。 ・情報科の学校設定科目において、プログラミング教育の5つの視点を生徒に身につけさせる授業研究を行う。 ・各教科・科目において、授業の展開や過程を意識した研究授業を行うとともに、生徒の取り組みを測るアンケートを実施する。 ・3年間の研究の成果（プログラミング教育の視点を踏まえた授業の学習指導案や学習活動例、生徒アンケートや生徒による授業評価の結果など）をホームページで公開する。</p>
<p>研究体制</p>	<p>平成 28 年度～平成 30 年度に指定された県立高校改革Ⅰ期指定事業「プログラミング教育研究推進校」の取り組みと同様、プロジェクトチームを結成し、そのチームを中核とした学校全体の組織体制を構築する。また研究開発を進めるに当たっては、大学や専門学校など、外部機関とも連携して指導・助言を受けられるよう組織づくりを行う。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>県立高校教育力向上推進事業 Ver. Ⅱ「シチズンシップ教育」指定（平成 25～27 年度） 県立高校改革Ⅰ期指定事業「プログラミング教育研究推進校」指定（平成 28～30 年度） 国立教育政策研究所実践研究協力校事業に係る協力校（共通教科情報）指定（平成 30～31 年度） 国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業（共通教科情報）指定（令和 2～3 年度） 県立高校改革Ⅱ期指定事業「プログラミング教育研究推進校」指定（平成 31～令和 3 年度）</p>